下顎骨形態が骨折部位に与える影響　に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2019 年 4 月 25 日 ～　　2021 年 3 月 31 日

〔研究課題〕

Gonial angle が下顎骨関節突起骨折に与える影響

〔研究目的〕

下顎骨骨折は顎顔面外傷では一般的なものですが、人により様々な部位で骨折をきたします。なかでも治療に難渋するのが関節突起といわれる部位の骨折です。骨折の評価にはレントゲン撮影や CT 撮影を行います。本研究では、治療時に撮影した画像を用いて下顎骨形態を分析し、関節突起骨折への影響因子を統計学的に検討します。

〔対象・研究方法〕

実際に骨折をきたしているレントゲン画像を用いて骨折線と顎の角度を計測します。それらに　歯の本数などの要因を加え、骨折部位との関係を分析することにより、予防因子の検討ならびに診断・治療計画立案・手術時の固定具選択に寄与します。対象は、2007 年 4 月から 2017 年 3 月の間に当院歯科口腔外科を受診し下顎骨骨折と診断した症例数の中から、不明瞭な画像データを取り除き、明瞭なオルソパントモグラフィと CT 画像が保存されている数から対象者数を 100 例としています。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部附属病院　医学部形成・口腔顎顔面外科学講座

〔個人情報の取り扱い〕

「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」、「個人情報の保護に関する法律」及び適用される法令、条例等を遵守し、個人を特定できないよう匿名化します。研究中データの保管は、鍵のついたロッカー内に保管します。データ使用を希望しない旨の申し出があった場合は、画像および個人情報等、得られたデータについては全て破棄します。紙媒体についてはシュレッダーで裁断し廃棄し、その他の媒体についても適正な方法で廃棄します。なお本研究で得られた結果は、学会や論文で発表する予定です。

〔その他〕

画像を用いる後ろ向き研究なので、患者様への負担はありません。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究実施責任者:医学部形成・口腔顎顔面学外科学講座　病院教授　市ノ川　義美
研究分担者:医学部形成・口腔顎顔面学外科学講座　助教　小原研心・大学院　平田　亮介
所属:　形成・口腔顎顔面外科学講座
住所:東京都板橋区加賀 2-11-1　　TEL:03-3964-1211 （代表）